

埼玉県四半期経営動向調査結果について（平成16年10～12月期）

I 調査結果の総括

「県内中小企業の経営動向は、緩やかな回復の動きにやや足踏み感がみられる。

今後の見通しについては、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。」

○経営者の景況感／8期ぶりに悪化した。

○売上げ／改善が続いているものの、来期は悪化する見通しである。

○資金繰り及び採算／改善がみられたものの、来期は再び悪化する見通しである。

○設備投資／実施率がわずかながら低下に転じ、来期も低下する見通しである。

○その他／ヒアリング調査した企業の状況は、製造業では一部の業種で上向き動きに一服感がみられた。

また、百貨店を始めとする小売業では、回復感は乏しく総じて厳しい状況が続いている。

II 調査要領

（1）調査方法及び調査対象

○アンケート調査

- ・ 製造業 : 900企業中、回答数 547企業（回答率60.8%）
- ・ 非製造業※ : 1,300企業中、回答数 853企業（回答率65.6%）
- 計 : 2,200企業中、回答数1,400企業（回答率63.6%）

※ 非製造業は建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、医療業、サービス業

○ヒアリング調査

- ・ 製造業 : 24企業・組合
- ・ 小売業 : 8企業・商店街
- ・ 情報サービス業 : 3企業
- 計 : 35企業等

（2）調査対象期間

平成16年10～12月（調査時期：平成16年12月）

（3）実施機関

埼玉県労働商工部産業企画課及び埼玉県労働商工センター

III 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

※ D I (景気動向指数 : Diffusion Index) とは、例えば「好況」と回答した企業割合から「不況」と回答した企業割合を差し引いた指数で、企業の景況判断等の強弱感の判断に使用する指数のことである。

〈例〉「好況」4.5% 「普通」32.5% 「不況」63.0%

$$D I = 4.5\% - 63.0\% = \blacktriangle 58.5$$

(1) 経営者の景況感と今後の景気見通し

「景況感は8期ぶりに悪化に転じた。今後の見通しについては、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。」

自社業界の景気について、全体では「好況である」とみる企業が5.0%、「不況である」が58.8%で、景況感のD I (「好況である」－「不況である」の企業割合)は▲53.7となり、平成14年10～12月期調査以来、8期ぶりに悪化した。

業種別にD I 値をみると、非製造業は、製造業に比べ依然として低い水準にとどまっている。

〈景況感D I : 前期 → 当期 (前年同期)〉

- ・全体 : ▲48.9 → ▲53.7 (▲65.9)
- ・製造業 : ▲37.2 → ▲41.0 (▲54.6)
- ・非製造業 : ▲56.7 → ▲61.9 (▲71.9)

今後の景気見通しについては、「良い方向に向かう」とみる企業が減少し、「悪い方向に向かう」とみる企業が増加しており、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合 : 前期→当期〉

- ・全体 : 9.2% → 5.0%
- ・製造業 : 11.4% → 6.6%
- ・非製造業 : 7.8% → 4.0%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合 : 前期→当期〉

- ・全体 : 20.2% → 31.6%
- ・製造業 : 18.2% → 28.2%
- ・非製造業 : 21.6% → 33.7%

(2) 売上げについて

「改善が続いているものの、来期は悪化する見通しである。」

当期の売上げD I は、製造業では3期連続で上昇し、非製造業では前期に続いて上昇して

いる。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iを下回る見通しである。

〈売上げD I：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：▲12.9 → ▲ 6.4（▲10.8）→ ▲19.8
- ・製 造 業：▲10.0 → 0.6（ 0.9）→ ▲24.5
- ・非製造業：▲14.9 → ▲10.8（▲17.2）→ ▲16.8

（3）資金繰りについて

「当期は改善がみられたものの、来期は再び悪化する見通しである。」

当期の資金繰りD Iは、製造業では7期連続で上昇し、非製造業では上昇に転じた。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iを下回る見通しである。

〈資金繰りD I：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：▲17.0 → ▲13.0（▲21.5）→ ▲23.0
- ・製 造 業：▲10.5 → ▲ 7.3（▲13.7）→ ▲20.8
- ・非製造業：▲21.4 → ▲16.7（▲25.7）→ ▲24.3

（4）採算について

「当期は改善がみられたものの、来期は再び悪化する見通しである。」

当期の採算D Iは、製造業、非製造業ともに上昇に転じた。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iを下回る見通しである。

〈採 算 D I：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：▲31.2 → ▲26.0（▲31.8）→ ▲29.3
- ・製 造 業：▲26.8 → ▲21.6（▲23.5）→ ▲29.9
- ・非製造業：▲34.1 → ▲28.8（▲36.4）→ ▲28.9

（5）設備投資の動向について

「実施率は、わずかながら低下に転じ、来期も低下する見通しである。」

実施率は、製造業で3期連続で上昇したものの、非製造業では低下に転じた。

来期については、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

〈設備投資実施率：前 期 → 当 期（前年同期）→ 来 期〉

- ・全 体：28.0% → 27.7%（27.6%）→ 21.7%
- ・製 造 業：32.2% → 34.5%（26.8%）→ 26.5%
- ・非製造業：25.3% → 23.4%（28.1%）→ 18.6%

2 ヒアリング調査結果の概況

(1) 製造業

業況は、改善が続いている業種もあるが、輸送用機械器具、電気機械器具及びプラスチック製品では上向き動きに一服感がみられる。また、印刷・出版は当期も不況感の強い状況が続いている。

売上げは、多くの業種で前年同期を上回っている。

受注単価は、下がった企業とほとんど変わらない企業がある。

採算性は、原材料価格の上昇を要因として、悪化している企業が多くなっている。

原材料価格は、鉄関連を始めとして大幅に上昇している。また、一部の原材料については、調達面で懸念が増している。

個別品目の受注動向については次のとおりである。

- ・ 自動車関連は、中国など海外向けが好調なトラック部品を始め総じて安定している。
- ・ 射出成形機関連や建設機械関連は海外向けを中心に好調に推移している。
- ・ ゲーム機向けや医療機器向けは好調さを維持している。
- ・ 好調に推移していた半導体製造装置関連は、生産調整期に入っており、大幅な減少に転じている。

設備投資については、主に一般機械器具製造業及びプラスチック製品製造業で、内製化比率を高めるための設備導入や一層の効率化を図るための設備更新などを実施した企業がみられた。

(2) 小売業

総じて業況の回復感は乏しく、厳しい状況に変化は見られない。

- ・ 百貨店は、お歳暮商戦の売上げが前年に届かない見込みであり、また暖冬の影響で婦人服も全く振るわなかった。
- ・ ディスカウントスーパーは、来店者数・購入単価の減少から前年同期より売上げが減少している。
- ・ 商店街については、売上げが低迷している店舗が多く、厳しい状況が続いている。

(3) 情報サービス業（ソフトウェア業）

業況は改善傾向にある。

- ・ 売上げは安定しており、引き合いは増加している。